

豊明市議会議長 殿

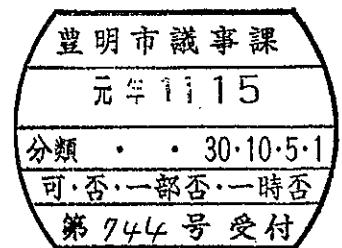
行政等視察報告書

議員名 鳩飼 貞雄

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和元年 10月 29日	兵庫県姫路市 (姫路城管理事務所)	「ARを活用した 姫路城の新たな演出」について
令和元年 10月 30日	高知県高知市 (高知 ぢばさんセンター他)	「第14回全国市議会議長会 研究フォーラム」  【1日目】 第1部 基調講演 「現代政治のマトリクス ーリベラル保守という可能性」 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島岳志氏 第2部 パネルディスカッション 「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井ゆづる パネリスト 高部 正男 他3名 第3部 意見交換会
令和元年 10月 31日		【2日目】 第4部 課題討議 「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター 坪井ゆづる 事例報告者 滝沢一成 他2名  ※別添報告有

(注) 別紙添付も可能とします。  
(注) 本報告書は5年間公開します。



# 会派視察報告書

提出者 鵜飼 貞雄

視察期間：令和元年10月29日(火)～10月31日(木)

視察先：兵庫県姫路市(姫路城管理事務所)  
高知県高知市(高知ぢばさんセンター)

## 1日目

### ARを活用した姫路城の新たな演出について(姫路城管理事務所)

#### ●現状と取組み

- ・世界文化遺産で国宝でもある姫路城は、築城時のままの美しい姿で、次世代へと引き継ぐために、定期的に大改修が行われている。約50年に一度大修理を行っており、昭和の大修理から45年経ったこともあり、平成の大修理が行われた。
- ・平成21年に大天守保存修理工事が着工され、平成27年に工事が終了した。この度の大修理の総工費は約24億円、延べ1万5千人の職人がこの工事に関わった。工事費は姫路城所有者である国が65%、管理者である姫路市が35%負担している。
- ・平成30年実績で158万人の来場者があった。
- ・姫路城の魅力の演出のため、ARとVRの技術を取り入れた。VRは民間の旅行会社の単独事業で、ARは行政の事業である。AR導入のインシヤルコストは3,000万円ほどで、ランニングコストはかかっていない。

#### ■所見

平成の大修理が終わり、新たな姫路城の魅力を発信するため、VRやAR技術を取り入れ、今までとは違った角度からの観光資源発掘に取り組まれている。

5年ほど前から全国の城や公園等でARを使った観光情報発信が広がっているが、そのPRに苦戦している所も多いようである。姫路城も来場

者の5%ほどしかARを使っていないようで、今後の広報活動を注目したい。

豊明市には、桶狭間古戦場伝説地等の歴史観光資源があり、スペースを確保しなくても情報発信が可能となるAR等の技術を取り入れる事も考えられるが、費用面を考慮すると積極的な利用の道筋が立たなければ導入は難しいとも考える。

## 2日目・3日目

### 全国市議会議長会研究フォーラム（高知ぢばさんセンター）

#### ●フォーラム内容

##### 【基調講演】

講師：中島岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

「現代政治のマトリクス リベラル保守という可能性」

- ・政治のマトリクス
- ・ラディカルデモクラシーとポピュリズム
- ・リベラルの逆説
- ・保守とは何か？

##### 【パネルディスカッション・課題討議】

「議会活性化のための船中八策」

- ・行政監視機能の強化
- ・次世代を見据えた議論
- ・データを踏まえた議論
- ・多様性の確保
- ・地方自治法第96条の1項2項を攻める
- ・労働法制の見直し
- ・情報公開の徹底
- ・議員間討議、合意形成

#### ■所見

基調講演については、講師の分かりやすい解説もと、リベラル保守とは何かが見えてきた。また、メディアなどが頻りに使うリベラルと保守の言

葉の意味が本質とかけ離れているとあり、この点は私も以前から同様の考えをしていた。

配分をめぐる軸と価値をめぐる軸からなるマトリクスを用い、この50年間の自民党の政治的スタンスのポジションを理解しながら、60年代後半から70年代前半の自民党がリベラル保守であったとの説明を受け深く納得した。

人間は間違いを起ししやすい生き物だからこそ、他社の意見を受け入れ合意形成をすることがいかに重要か理解でき、そのことがリベラル保守の姿勢であり、政治の目指すスタンスであると思う。

次に、パネルディスカッションと課題討議に関しては、話の内容や落としどころ、進行の仕方などを見る限りでは、コーディネーターと一部のパネリストや事例報告者が適任では無かったと思う。

都度話題が全く違う方向に行ってしまう、何を討議しているのか全く理解できず、報告書にまとめることすら不可能な状況であった。

例えば、女性や若手議員のなり手が少ないなどの、人材不足について討議し決定的な打開策でも見つかるかと思いきや、気付いたら次の話に移ってしまう。議会の活性化についてもっと活発な討議があると思っていたので残念で仕方がない。

以上の理由から課題討議の最後にコーディネーターが口頭で示した、議会活性化のための船中八策を記すのみに留めたい。

以上